修了要件

博士課程前期課程を修了し、修士の学位を取得するための要件は下記の通りです。

(1) 博士課程前期課程に2年以上在学すること。

*在学期間に関しては研究科委員会が優れた研究業績をあげたと認めた者については短縮されることがあります。

(2) 論文研修第一、論文研修第二、論文研修第三及び論文研修第四を含めて30単位を修得すること。ただし、優れた研究業績を上げて早期に修了する場合は、論文研修第一及び論文研修第二を含めて30単位を修得すること。

(3) 修士論文の審査及び最終審査に合格すること。

理工学研究科修士学位審査における審査基準

中央大学大学院学則第6章第3節、及び中央大学学位規則に基づき、修士論文の審査、及び最終試験について、以下の観点で審査を行う。

なお、修士学位の授与決定は、修士論文の評価、及び最終試験の評価について、それぞれ合格の判定を受けるとともに、所要の単位修得がなければならない。

1. 修士論文審査について

修士論文の審査は、学位授与方針を踏まえて、以下の観点について、修士学位を授与するに十分な水準にあるかどうかを審査する。

- (1) 問題意識に対する課題設定の適切性
- (2) 分析手法の適切性
- (3) 論文構成の適切性と明確性
- (4) 課題に対する結論の妥当性とその独自性
- (5) 基本的な専門用語の理解度とその使用の適切性
- (6) 脚注、注記、引用・参考文献の提示方法の適切性
- (7) 論拠となるデータの信頼性、図表の正確性と適切性
- (8) 論文の学問的意義、あるいは社会的意義

2. 最終試験について

最終試験は、原則として口述試験にて行う。その評価は、学位授与方針を踏まえて、以下の観点について、修士学位を授与するに十分な水準にあるかどうかを審査する。

- (1) 修士論文に関連する知識の有無とその水準
- (2) 専門分野に関連する知識の有無とその水準
- (3) 自身の研究に関する学問的意義の認識とその程度
- (4) 自身の研究に関する社会的意義の認識とその程度
- (5) 試問に対して明解かつ論理的に回答しているかどうか

3. 付記事項

理工学研究科においては、「論文研修第一」～「論文研修第四」という科目を設置し、その内容を講義要項にて公表した上、研究指導・論文作成指導、成績評価付与を行っている。そのため、修士論文および最終試験については、合否の判定のみとし、個別の成績評価は行わない。

以上